

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(県立度会特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		<p>「力のある特別支援学校」</p> <p>○「教育力のある特別支援学校」 児童生徒の人権を大切にし、最大限の発達と進路保障を追求する学校</p> <p>○「対話力のある特別支援学校」 家庭・地域社会と連携し、常に相手の立場に立って考え行動する、地域に開かれ地域から信頼される学校</p> <p>○「組織力のある特別支援学校」 チームワークに徹し、進んで支え合い学び合う、働きがいのある学校</p>
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	<p>○「将来の夢」や「なりたい自分」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学校生活を送ることができる子ども。</p> <p>○自他ともに大切にする人権意識を持ち、自己肯定感を高め、地域社会で生きていける力を身に付けていく子ども。</p>
	ありたい教職員の姿	<p>○児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、一人ひとりに応じその可能性を伸ばす指導・支援ができる教職員。</p> <p>○肢体不自由児教育に対する高い専門性を持っており、自信を持って授業を行う教職員。</p> <p>○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> 安全で楽しい学校生活、卒業後の自立と社会参加</p> <p><保護者> 専門的な肢体不自由教育の充実、高等部卒業後の進路先確保 児童生徒一人ひとりを大切にする信頼できる学校</p> <p><地域の小中学校等> 特別支援学校のセンター的機能の充実、交流及び共同学習の充実</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 進路先や福祉事業所と学校の一層の連携</p> <p><関係機関(福祉、医療、労働等)> 支援にかかる情報の共有 障がい者を雇用することに対する不安の解消</p> <p><地域の学校> 児童生徒の居住地校との連携による相互理解</p>	<p><保護者> 早期からのキャリア教育における連携の推進</p> <p><関係機関(福祉、医療、労働等)> 支援に係る情報の共有、肢体不自由の児童生徒の支援・介助等に対する理解の深まり</p> <p><地域の学校> 積極的な交流及び共同学習の実施 障がい者理解の推進</p>

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動についてはおおむね目標が達成されている。校内研修について特別支援学校において自立活動の研修を継続して取り組んでいくことは大切ではあるが、各教科との関連性・系統性について検討していくことも重要である。次年度以降、教育課程の見直しと合わせて検討していく必要がある。 ・学校運営についてはおおむね目標は達成されている。職場の同僚性においては幾分改善の兆しはみられるが、業務への取り組み方は課題が残っている。次年度校務運営組織を見直し、職場の関係性の向上を図りつつ、業務への取り組みを改善して、円滑な校務運営を行っていく必要がある。 ・ストレスチェックにおいては、今年度も「ストレスが高い」と結果が出ており、身体的負担度の高さが示されている。改善に向けた取り組みが必要である。
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの重度重複化が進んでおり、益々一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践を行っていく必要がある。 ・教職員の専門性および授業力の向上に向けたさらなる取組は大切である。 ・12年間の学びについて、学習指導要領をもとに、各教科の時数の検討を進めてきた。連続性のある目標設定をすることで日々の授業の充実を図る必要がある。 ・児童生徒一人ひとりに応じた支援を行うことで、保護者や関係者からの信頼に応えられるよう、人権を尊重した教育活動を継続して行っていく必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を携えた質の高い教育実践の組織的な継承を行っていくため、研修計画を含め検討していく必要がある。 ・常日頃協力し合って業務に取り組めるよう、コミュニケーション力を高め、情報共有を円滑に行い、信頼関係を深めていくことが重要である。 ・月45h越え時間外労働時間の人数や月平均時間外労働時間数は昨年度と比べ増加しており、学校運営の効率化、業務の平準化が必要である。 ・一人ひとりが学校をよくしていこうという建設的な意見が多くみられるなど、職員一人ひとりの意識が変わってきており、さらなる同僚性の向上が大切である。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動を行うため、系統的なキャリア教育やICTを活用した取組を推進し、肢体不自由児教育の専門性の向上を図る。 ・交流および共同学習の取組を通して、児童生徒が生き生きと生活できるよう地域とのつながりを深める。 ・学校整備を視野に入れ、肢体不自由部門の教育課程の見直しが必要である。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの意識を高め、児童生徒および保護者、関係者からの信頼にこたえられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動を行う。 ・安心して安全な教育環境の整備を進めるとともに、感染症対策や防災等における危機管理の取組を推進する。 ・組織体制の見直しを進め、効率的な業務の進め方について検証し、働しやすい学校となるよう改善を進める。 ・研修や対話を通して教職員の同僚性を高め、互いに支えあえるような職員集団を築く。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程の編成	<p>教科学習をベースにした教育課程を編成する。 <教務部></p> <p>【活動指標】 ・教科学習を基本とした教育課程を編成し、教職員に周知を図る。</p> <p>【成果指標】 ・令和8年度教育課程に適切に反映する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p> <p>【活動指標】 教科学習をベースとした教育課程を検討し、編成することができた。職員会議や研修報告会を通して教職員に周知を図ることができた。</p> <p>【成果指標】 令和8年度の教育課程に反映することができた。</p>	◎
交流および共同学習の推進	<p>(1)児童生徒の居住地にある学校や近隣の学校等との「交流及び共同学習」を進める。 <研修部></p> <p>【活動指標】 ・居住地校交流の実施 希望者2回以上/年 ・学校間交流 各学部3回/年</p> <p>【成果指標】 保護者満足度調査の結果 ・交流及び共同学習(居住地校・学校間交流)について、「概ね満足」以上の保護者80%以上</p> <p>(2)交流及び共同学習を通して、本校の児童生徒への理解を進める。 <研修部></p> <p>【活動指標】 ・年度末に居住地校交流と学校間交流の相手校に調査を行う。</p> <p>【成果指標】 ・相手校の児童生徒にとって、交流をして「よかったか、概ねよかった」と返答した相手校80%以上</p>	<p>【活動指標】 ・居住地校交流では、小学部15人、中学部4人が交流を実施。95%の児童生徒が概ね2回以上交流することができた。 ・学校間交流では、学期に1回、直接交流を実施。</p> <p>【成果指標】 交流および共同学習について「概ね満足」以上の保護者は97%。</p> <p>【活動指標】 ・居住地校交流の相手校、学校間交流の相手校に意見を聞き取った。</p> <p>【成果指標】 ・「本校の児童生徒と居住地校交流をさせていただき、貴校の児童生徒にとって、交流をしてよかったか」の問いに対し、「よかった、概ねよかった」の回答が100%。</p>	※
命を大切に する教育の 推進	<p>・児童生徒の発達段階に合わせて「周囲とのかかわりの中で、多様な考え方を知り、自分、家族、友だちを大切にすること」の学びを深める。 <主事部></p> <p>【活動指標】 ・命を大切に学習活動 1回/学期</p>	<p>【活動指標】 ・小学部では「生活」「道徳」「集会」の授業、中学部では「道徳」の授業、高等部では「道徳」の授業を中心に、自分、友だち、家族を大切にすることを題材にした学習を学期に1回以上実施した。小学部高学年では絵本を使って自分</p>	

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまを意識した活動の様子や関わり方の変容が個別の指導計画に記録される。 	<p>の体を大切に学習を行った。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心身の変容や成長の様子が個別の指導計画の評価欄に反映された。 	
	<p>いじめ、体罰防止の推進 <いじめ防止委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・每学期末ごとに聞き取り調査を行う。1回/学期 ・毎日のクラスの話し合い、学部会等で情報共有をこまめに行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知したいじめを解決 100% ・体罰事案発生 0件 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に懇談会等で全児童生徒及び保護者に聞き取りを行い、情報を共有した。 ・放課後に行っているクラスの話し合い、学部会等で児童生徒の情報共有を行っている。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知したいじめ 0件 ・体罰事案0件 	※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	<p>(1)教員の「自立活動」における専門性向上を目指し、自立活動の基盤となる「実態把握」の力を高める取り組みを進める。また、各教科等における研究も深めていく教育実践を目指す。 <研修部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究9回/年以上 ・各グループで自立活動実態シートを作成し、実態把握目標、手立て等明記し、情報共有を行う。 ・皇學館大学山本准教授に授業実践を見ていただき、実践的指導力の向上を目指す。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度の調査の結果、「自立活動」における自己の指導力が向上したと回答した教員80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動実態シートに子どもの実態を記入し、グループで検討を行い、授業実践に生かした。また、1年間の評価も記入することで指導の過程と成果を整理・共有することができた。 ・校内研究年間9回実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足調査の結果、「自立活動」における自己の指導力が向上した教員は85%。 	
	<p>GIGA スクール構想における ICT 環境(iPad、支援機器類)の整備と活用を進める。また、ICT を活用した授業力向上をめざし、教員のニーズや実態に応じた研修会を実施する。 <情報教育部></p>	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回情報研修会を実施。 ・4月は基本的な内容、8月は最新の ICT 機器類活用 	

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報研修会 2 回/年開催。 ・アンケートは研修会前、直後と4か月後の計3回実施し、ICT を活用した授業実践の実態を把握する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会を通じて、授業で ICT 機器を活用した教職員の割合 80%以上。 	<p>に関する研修会を実施した。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に実施したアンケートの結果、ICT を活用した授業力が向上した教職員は100%。 	※
センター的機能の発揮	<p>(1)本校が有する肢体不自由児童生徒の支援スキルが保幼小中学校や地域の支援機関と共有されるための研修を実施する。 <進路支援部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校における見学及び体験研修等 6回/年以上。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談や助言により、相手校の課題が改善されたと答えた割合 80%以上。 	<p>【活動指標】</p> <p>学校見学1回、来校相談3回、巡回相談26回実施。</p> <p>【成果指標】</p> <p>学校見学者は3名。来校相談者は5名。今後の教育活動に早速生かせる「満足」の回答。継続して支援を実施した回数は12人。すべての相談者から概ね課題が改善された。</p>	
危機管理能力の向上	<p>(1)安全安心な教育環境の整備と防災機能強化を進める。 <総務部・生活保健部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(2 回/年<火災・地震>)、不審者対応訓練(1 回/年)、スクールバス救援出動訓練(2 回/年)実施 ・感染症対策研修会、救命講習会実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、本校の危機管理対応について「概ね満足」以上 90%以上 ・職員満足度調査の結果、自己の危機管理能力が向上した職員90%以上、本校の防災対策が向上した職員 80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を2回実施。スクールバス救援出動訓練は6月・11月に実施。不審者対応訓練は5月に実施。 ・感染症対策研修会 7 月に実施。救急救命講習会を11月に実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、本校の危機管理対応について、「概ね満足」以上 95% ・職員満足度調査の結果、本校の防災対策が向上した職員89% 	
学校運営の効率化・同僚性の向上	<p>(1)内規およびマニュアル等を円滑・適切に運用し、更なる学校運営の効率化を図る。 <企画運営委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後に開催する全員参加の会議、研修会の 60 分以内の終了 90%以上 ・定時退校日を月 1 日と長期休業中に設定するとともに、定時退校した職員 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの月平均時間外労働 10 時間以下 ・一人当たりの年間休暇(年次休暇・夏季休暇)取得日数 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員参加の研修会や会議は27回、60分以内に終了した回数は96%。 ・定時退校日に定時に退校した割合は93%。 ・学校閉校日は年5日設定) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均時間外労働 8.3時間 ・年間休暇取得日数 18.2 	

	<p>15 日以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人 ・時間外労働時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人 	<p>日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働(45 時間以上) <p><4 月:1人、7 月:1 人、10 月:1 人></p>	
	<p>・組織運営の在り方を継続的に改善し、「やる気」と「元気」がみなぎる組織風土を醸成するため、学校改善活動に取り組む。 <総務部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場づくりのためのミーティングを実施。1 回/年 ・「振り返りの時間」を利用して、児童生徒への接し方や業務上気になること、同僚同士の会話で問題を感じるなどなどの課題について話し合う。何か職員間で共有・対応すべきことがあった場合は、直接学校改善係に伝えてもらい、昨年度同様係が対応していく。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査の結果、日々の仕事にやりがいを感じている職員 80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場づくりのためのミーティングとして「おしゃべりカフェわたらい」を2回実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度アンケートにおいて「日々の仕事にやりがいを感じている」職員の割合 91%。「同僚と相談しながら仕事を進めていく体制ができている」職員の割合が 81%。 	
	<p>(3)児童生徒一人ひとりに応じた誠実な支援により、保護者・関係者からの信頼に応えられるよう、人権尊重の態度で教育活動を行う。 <学校信頼向上委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会開催 6 回/年 ・コンプライアンスミーティング 4 回以上/年 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、「学校は人権を大切にし、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。」概ね満足以上の保護者 90%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会 7 回開催 コンプライアンス研修 4 回実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は人権を大切にし、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。」100% 	◎
	<p>・職員のメンタルヘルスに関する取り組みを進める。 <安全衛生委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレス対処法セミナーの実施。 ・メンタル相談のお知らせを告知する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの総合健康リスクを良い方向にあげる。 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校スクールカウンセラーによる「メンタルヘルスについて」と題した校内研修会を実施。教職員の参加 85%。 ・メンタル相談のお知らせの告知、セミナーの案内を周知した。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの総合健康リスクの数値が、前年度104から96へ改善した。 	

改善課題	
<p>○概ね目標通りの成果が得られたと考える。一番の課題であった教育課程の編成については教科学習を基本とした編成ができた。次年度は完成した教育課程をより確実に実行できるよう年間指導計画の作成等に向けて取り組み、肢体不自由教育が進展するよう職員研修を深める必要がある。</p> <p>○職員の労働環境においては在校時間の長い職員の人数が多い。要因として、業務の属人化が考えられる。業務の平準化においては更なる校務運営組織の見直しや効率化、職場の同僚性の向上に向けて取り組んでいく必要がある。</p> <p>○交流および共同学習においては、希望者全員の実施と高い保護者満足度を得ているが、十分にご家族の気持ちに寄り添っているとは言い難い状況もある。今後も交流の機会を大切にし、丁寧に進める必要がある。</p> <p>○感染症への懸念や健康上の理由等により、継続的な登校が難しい児童生徒に柔軟に対応し、関係機関との連携を深め、学習機会の確保に努める。</p> <p>○自然災害や突発的なトラブルへの対応策を学び、学校の対応力を高める必要がある。</p>	

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○医療的ケアや児童生徒の健康保持・増進のためには、職員の日々の取組に加えて、保護者との信頼関係を築き、日々の情報を共有し合うなど、地道な連携が欠かせない。</p> <p>○職員アンケートでは、「職場内に一息つける場所がある」と答える職員が毎年少ない状況が続いている。児童生徒数の減少により、以前と比べて部屋の確保は十分にできている。しかし、ズレ勤や短時間勤務など、多様な働き方を選択する職員が増えたことで、会議時間や休憩時間の設定が難しくなっている。その結果、休憩時間を確実に取得できているとは言い難い状況にある。</p> <p>また、業務の公平感や多忙感から、心にも余裕を持ちにくいことも課題として考えられる。これらの解決に向け、これまでも校務内容の見直しを進めてきたが、長期的な視点での業務の平準化やAIの活用の推進など、さらなる改善が必要がある。</p>
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○障がいの重度・重複化が進んでいることから、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践が益々必要になってきている。今後も更なる肢体不自由教育における専門性、授業力の向上に向けた取組は必須である。</p> <p>○副次的な籍を利用した居住地校との交流機会など、地域の取組は拡大傾向にある。様々な機会を通じて地域の理解を深め、保護者の心情に寄り添い、取組を進めていく必要がある。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○人権、コンプライアンス研修については、今後も児童生徒および保護者、関係地域の人から信頼に応えることができるよう、人権を尊重した取り組みを継続して行っていく必要がある。</p> <p>○教職員間で積極的に情報共有を行い、ICTを活用した学習機会等、様々な方法で学習機会を提供する。</p> <p>○働き方改革の一環である勤務時間の管理については業務の偏りによる多忙感の解消のためには、日常から職員どうしの対話を含めた同僚性の向上は必要である。今後は多様な働き方や個々の個性を踏まえ、それぞれの立場を尊重し、協力・協働の意識をもって業務にあたっていく必要がある。</p> <p>○災害や事故等に応じて適切に対応できるよう、適宜マニュアルの見直しを行う。</p>